

そう だい
総 題 「家族の四季」

だい か かぞく ち え と こと ば
第5課 家族のための知恵に富む言葉

ひらもと あきら
平本 光

こんしゅう
今週のガイドは、

ふう ふ かんけい ちちおや せきにん
夫婦の関係や父親としての責任、

こども かぞく たの す ほうほう
子供のしつけや家族が楽しく過ごす方法、

よ あいて けっこん
良い相手との結婚について

しんげん とお まな
箴言を通して学びます。

あんそくにち ご こんしゅう
1. 安息日午後：今週のテーマ

こ おお き ふく くつ あ あたら ひつよう
子どもが大きくなるにつれて、着ている服や靴が合わなくなって、新しいものが必要なように、

しん す わたし こころ せいちょう
キリストを信じて過ごす私たちにも心の成長や、

かんきょう し ちが あたら どう し かんけい
環境にあった、キリストを知らなかったときとは違う新しいクリスチャン同士の関係ができていきます。

しん ちちおや ははおや かんけい
キリストを信じる父親と母親の関係、

こ ただ つた かぞく とも せいちょう
キリストを子どもたちに正しく伝えて家族がキリストと共に成長していくために、

じぶん かんが き て おし しんげん おお
自分の考えを決める手がかりとなる教えが箴言には多くあります。

しんげん ちちおや こ つた たいせつ いっしょ あゆ じんせい おく
箴言には父親としてソロモンが子どもに、伝えたい大切なキリストと一緒に歩いていく人生を送るためにと

ほうほう しる
っておきの方法が記されています。

2. 日曜日：ふさわしい女性を愛しなさい

結婚生活を壊すものには、結婚した相手以外の人を愛することができます。

肉体関係（相手との性的な結びつき・セックス）は結婚した二人にだけ与えられる特別なものです。

聖書において相手を「知る」ということは、結婚した二人が心も体の全ても知ることができるということです。

相手のすべてを知るためには、長い時間をかけていかなければなりません。

他の相手に心が向いてしまっていてはできないことです。

誘惑に負けないために、結婚を決めた一人の相手を愛し続けることが必要です。

結婚した二人が、お互いの欠点（不十分なところ）を愛し続ける必要を教えています。

喧嘩をすることがあったとしても、決して相手から離れず、いつまでも夢中で愛することです。

3. 月曜日：父親への召し

父親の持っている品性（性格）は、妻や子供に影響を与えます。

言葉遣いや親切な態度、神様への祈り方、神様への求め方の手本となるからです。

神を信頼して生きる生活、神を知る生活、神を愛する生活の手本を家庭において伝えることが望まれています。

エレン・ホワイトは「子どもが最初にもっとも長く続く教えを得る学校が身内の人たちです」と言っています。

父親は仕事よりも家庭を優先することを大切にして、一緒に子どもたちと関わることも必要です。

仕事を優先する家庭の父親を、子供たちは12歳ぐらいまでお小遣いをくれる相手としか思わないなどとテレビ

番組で言っていたことがあります。ですから、忘れられないように家族を優先する必要があります。

また、エレン・ホワイトは

「両親^{りょうしん}は、子供^{こども}に神^{かみ}を礼拝^{れいはい}し、愛^{あい}するよう、教^{おし}えていくべきです。

子供^{こども}たちに、

知識^{ちしき}（情^{じょうほう}報^もを持つこと）や知恵^{ちえ}（情^{じょうほう}報^{つか}を使えるようになること）を持^もてるように支^{ささ}え、

社交^{しゃこうてき}的で、愛^{あい}情^{じょうぶ}深くあつて、

仕事^{しごと}や勉^{べんきょう}強^{ぜんりょく}に全^う力^こで打^{うち}込^{込み}み、

節^{せつ}約^{やく}すること、

神^{かみ}を第^{だいいち}一^{いち}として自^じ己^こ中^{ちゅうしん}心^{しん}にならないよう^{おし}に教^{おし}えなければならな

と教^{おし}えています。

これ^{ちちおや}は父^{ひとり}親^{むすか}が一人^{つま}ですること^こは難^{ははおや}しいこと^{かんけい}なので、妻^{つま}（子^こども^{ははおや}の母^{かんけい}親^{かんけい}）と^{かんけい}の関^{かんけい}係^{けい}をし^しっか^しり^しと^した^しもの^しと^して^しき^しる^しよう^しに^し愛^{あい}し^{つづ}続^{おし}け^{おし}る^{おし}こと^{おし}も^{おし}教^{おし}え^{おし}て^{おし}い^{おし}ま^{おし}す^{おし}。

4. 火曜^{かようび}日^{あひ}：愛^{ともな}を伴^こう懲^こらしめ

しつけとはただ暴^{ぼうりょく}力^{りょく}によ^しって支^し配^{はい}する^しこと^しでは^しあ^しり^しま^しせ^しん^し。

何^{なに}が正^{ただ}しいこと^わで悪^{わる}いこと^こなの^こか^こを子^こども^{じしん}自^{ほん}身^{だん}が判^{おし}断^{かみ}で^{みちび}き^{おし}る^{おし}よう^{おし}に^{おし}教^{おし}え^{おし}、神^{かみ}に^{おし}導^{みちび}いて^{おし}い^{おし}く^{おし}こと^{おし}です^{おし}。

その^{ゆうえき}た^{ふくどくほん}め^{ふくどくほん}に有^{ふくどくほん}益^{ふくどくほん}な^{ふくどくほん}こ^{ふくどくほん}と^{ふくどくほん}が副^{ふくどくほん}読^{ふくどくほん}本^{ふくどくほん}に^{ふくどくほん}あ^{ふくどくほん}り^{ふくどくほん}ま^{ふくどくほん}す^{ふくどくほん}。

1. 勧^{かんこく}告^{こく}する^こ（ど^{こうどう}の^{おし}よう^{おし}に^{おし}行^{じょげん}動^{あた}する^{おし}か^{おし}教^{おし}え^{おし}る^{おし}）こ^{おし}と^{おし}、助^{じょげん}言^{あた}を^{おし}与^{おし}え^{おし}、警^{けいこく}告^{あぶ}（危^{あぶ}ない^{あぶ}こ^{あぶ}と^{あぶ}を^{あぶ}前^{まえ}も^{おし}つ^{おし}て^{おし}教^{おし}え^{おし}る^{おし}）を^{おし}与^{おし}え^{おし}る^{おし}。

2. 慰^{なぐさ}める^{なぐさ}こ^{なぐさ}と^{なぐさ}、な^{げん}だ^きめ^き、元^{げん}気^きづ^きける^きこ^きと^き。

3. 子^こども^こた^こち^こに^こ責^{せきにん}任^もを^{おし}持^{おし}た^{おし}せ^{おし}る^{おし}こ^{おし}と^{おし}、教^{おし}え^{おし}諭^{さと}し^{おし}、行^{こうい}為^{じぶん}（自^{こうい}分^{じぶん}の^{こうい}行^{こうい}動^{こうい}）の^{せきにん}責^も任^もを^{おし}持^{おし}た^{おし}せ^{おし}る^{おし}こ^{おし}と^{おし}。

以^い上^{じょう}の^{くわ}3^{こども}つ^{だれ}に^{おな}加^{かがや}えて^{そんざい}、子^{みと}供^{みと}た^{みと}ち^{みと}は^{みと}誰^{みと}も^{みと}同^{みと}じ^{みと}で^{みと}は^{みと}な^{みと}く^{みと}輝^{みと}い^{みと}て^{みと}い^{みと}る^{みと}存^{みと}在^{みと}で^{みと}あ^{みと}る^{みと}と^{みと}認^{みと}め^{みと}る^{みと}こ^{みと}と^{みと}す^{みと}。

その子どもにあった助けを与え、成長のためにつらいことや苦しみを一緒に乗り越えていけるように愛する
ことを教えています。

5. 水曜日：屋根の上の生活の方が良いか

家庭の平和は、すべての人が求めている祝福です。

箴言を通してソロモンは健全なユーモア（人の心を安心させる上品な笑い）を持っていたことがわかります。

箴言15:13「心に楽しみがあれば顔色も喜ばしい、心に憂いがあれば気はふさぐ」とあるように、家庭の

中にユーモア（人の気持ちが優しくなる笑い）があるとき明るく生きていくことができます。

井上ひさしという方の言葉に「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、お

もしろいことをまじめに、まじめなことをゆかみに、そしてゆかみなことはあくまでゆかみに」できる知恵を箴言で
はいくつか紹介されています。

また、ユーモア（人の気持ちが優しくなる笑い）は、真剣に向き合わなければならない問題から逃げるために用

いるものでないことも指摘されています。

難しい問題が起こったときに真剣に話し合える良好な関係を持つために、ユーモア（人の気持ちが優しくな
る笑い）が用いられる（使う）ことを進めています。

エレン・ホワイトのアドベンチスト・ホームから一文章を紹介します。

「どの家族も周囲から独立した神聖な関係がある。そしてこれは維持しなければならないものである。

ほかのどんな人もこの神聖な関係に割り込む権利はない。

夫も妻も互いに相手のすべてでなければならない。

つま たにん い おっと ひみつ も
妻は他人に言いながら夫にかくしておく秘密を持ってはならない。

おっと ひと う つま ひみつ
夫もまた、ほかの人に打ちあけておきながら妻にかくしておく秘密があつてはならない。

つま こころ おっと けってん はか おっと こころ つま けってん はか
妻の心は夫の欠点の墓でなければならず、夫の心も妻の欠点の墓でなければならぬ。

おっと つま あいて かんじょう きず じょうだん い
夫も妻も相手の感情を傷つけるような冗談を言つてはならない。

じょうだん い が い た い ど あいて た い ふ へ い た にん い
冗談にでも、あるいはそれ以外の態度にでも、相手に対する不平を他人に言つてはならない。

このおろかな(バカな)、ま った が い あいて こ ま み じょうだん い
全く害のない(相手を困らせることのない)ように見える冗談でも、いつも言つて

い ば、さいご たが くる なか わる
い ば、最後にはそのために互いに苦しんだり、仲が悪くなつたりすることがあるからである」。

『アドベンチスト・ホーム』